

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 動物応用科学科

職階 講師

氏名 加瀬ちひろ

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

応用動物行動学を主として、動物応用科学分野での実践的ジェネラリストに必要な基礎知識と技能、思考力、分析力、表現力を講義・ゼミナール・実習に加え卒業研究を通じて学生が習得できるようプログラムを提供している。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
動物応用科学概論	動物応用科学科	必修	1	137
畜産学概論	動物応用科学科	選択	1	91
サイエンスリテラシーⅡ	動物応用科学科	必修	1	139
動物応用科学実習	動物応用科学科	必修	1	138
応用動物行動学	動物応用科学科	必修	2	159
動物福祉論	動物応用科学科	必修	2	138
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3	10
動物行動管理学実習	動物応用科学科	選択	3	60
動物環境行動学	動物応用科学科	選択	3	79
科学の伝達	動物応用科学科	選択	4	6
卒業論文	動物応用科学科	選択	4	7
比較動物学Ⅱ	獣医保健看護学科	必修	2	74
獣医学特論Ⅱ	獣医学科	必修	6	1
獣医学特論Ⅰ	獣医学科	必修	5	1
応用動物行動学特論Ⅰ	動物応用科学専攻（博士前期課程）	選択	1	10
応用動物行動学特論Ⅱ	動物応用科学専攻（博士前期課程）	選択	1	10

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

人と動物の共生の実現に向けて自ら考え・動ける人材の育成。また、自己肯定感を持ち、何事にも前向きに取り組めるような環境作りをする。

自ら考え・動くことのできる人材を育成するために、理解の促進と学びの定着を図り、あらゆる学びの場面で主体性を持たせるようにする。また、様々な立場からの意見に触れることで多角的視点を持つことを習慣づけ、問題解決力を身につけられるよう考える機会と時間、試行錯誤できる環境を与える。自ら考え・動くためには、自己肯定感を持つことや何事にも前向きに取り組む姿勢も必要である。これらを養うために、特にゼミナールや研究室活動を通じて、コミュニティ内での信頼感・共感・一体感・ポジティブな情動を持てる雰囲気醸成に取り組む。また、ゼミナールや研究室活動を通じて小さな成功体験を大学時代に多く経験できるような仕組み作りをする。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

講義や実習の資料は見易さ・理解し易さを重視し、学びの定着を図るため、学生自身のこれまでの経験や興味、共感できる内容と関連させた話題提供を心がけている。また、実習に関しては事前に当日の手順を確認できるような説明動画をLMSにアップし、各自確認してから実習に参加させることで、実習の限られた時間を有効に使えるようにしている。学生からの質問にはすぐに答えるようにし、講義やゼミでは学生個人の意見もその場で聞き取るようにすることで、学びの主体性を意識づけている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

オンラインツールを使って講義参加者の意見を集約・匿名公開することで、講義への主体的参加を促した。オンラインのブレイクアウトセッション機能を使って、小グループでの発表、ディスカッションを繰り返した。

(2) ICTの教育活用

有

azamoodleの小テスト機能を使って、定期試験前にこれまでに実施した小テスト問題全てを何度でも受験・解説を確認できるようにし、定期試験対策のツールとして公開した。また、オンラインツールを使って講義内での意見集約・匿名公開なども行った。高学年ではどこからでも講義に参加できるように、Google meetを使ってリアルタイムのオンライン授業を行った。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

昼休みあけの眠い時間帯の講義科目では、眠気覚ましの動物関連クイズを行ったり、資料に回数を重ねるごとに成長する鶏のイラストを用いたり、学生のちょっとした楽しみになるような工夫をすることで、授業への参加の動機づけを多岐に渡らせるようにしている。また、講義内での意見交換の機会もなるべく設け、考えながら知識を習得できる環境づくりを心がけている。実習科目では、技能の習得だけでなく、内容に関連する社会的課題や取得したデータから考えられることを班でディスカッション・発表する機会を設けることで、思考力やプレゼンテーション力の向上を図っている。

(2) 学生の理解度の把握

A

昨年度、定期試験の成績不良者が多かった科目では、定期試験前に理解度確認テストを実施した。このテストの点数は成績には反映されないが、自身の理解度を見える化することで、定期試験の成績不良者は減らすことができた。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

azamoodleを使った小テストは3回まで受験可能として、繰り返し受験する動機づけを図っている。また、定期試験対策のツールとして繰り返し問題を解けるように、過去の小テスト問題を全てまとめて公開もした。これらは活用されているが、定期試験のない講義科目では、参考資料など示しても一部の興味ある学生しか自学自習に活用されていないため、自分で調べたくなる仕掛けづくりを考えたい。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

講義の終わりに質問や意見聴取をしており、それに対して次回の講義の冒頭で回答をしている。また、講義中にもオンラインツールを使って、参加者に意見聴取・匿名での公開をしている。

(5) 双方向授業への工夫

A

講義中にオンラインツールを使って、参加者に意見聴取・匿名での公開することで、双方向性を担保している。また、リアルタイムのオンライン講義科目では、参加者にチャットで意見を求めたり、必ず毎回、複数名を指名して意見を聞くようにしている。オンライン上での発言は、最初はためらいがあるようだが、繰り返すことで慣れさせることができている。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

該当なし

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

良かった点として評価された取り組みについては、今年度も継続して実施した。いくつか自由記述の要望があったため、要望に対しては可能な限り改善に努めた。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

大きな改善点はアンケートに書かれていなかったが、休憩時間の確保や授業時間を予定通り終わらせるなどのタイムマネジメントについての意見があったので、できる限り時間内に収まるように時にはコンパクトな説明を心がけた。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

年々、話す内容が増えてしまいがちなので、なるべく端的に話すことを徹底する。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

今年度初めて実施した「理解度確認テスト」は学生に自身の理解度を自覚させる狙い通りの効果があったため、次年度も実施したい。しかし、それでも成績不良者がいたため、次年度はさらに「理解度確認テスト」の成績不良者に対して個別でアラートを出すことを検討する。

(2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

「理解度確認テスト」取り組み前は、定期試験の成績不良による単位を取得できなかった学生が全体の13.5%であったが、取り組み後は5.6%に減少した。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

ティーチング・ポートフォリオのブラッシュアップ研修に参加し、改めて自分の教育理念や教育における工夫について見直しができる。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

動物福祉論以外の講義でも、SugukikuやLive!アンケートなどの即時性の高いアンケート調査・フィードバック機能を用いることで学生の主体的参加を促進する。実習の課題レポートについて、こちらの意図に沿った内容を書ける学生を全体の90%以上に高めることを目指す。専門ゼミについては、卒業研究にスムーズに接続させるためのプログラムを再考する。卒業研究については、更に学生に考える機会を与えるための仕組み作りを実践する。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

- ・ シラバス
- ・ 配布資料
- ・ 小テスト
- ・ 授業動画
- ・ 授業評価データ
- ・ 卒業論文